

～タイトル～

「教員基礎探究」学校実習 2 「釧路市立阿寒湖義務教育学校」が実施されました。

～本文～

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム（前半：『教員基礎』、後半『教員基礎探究』）」を北海道教育委員会と連携して実施しています。釧路校でも、2023 年度より実施しております。

7 月 20 日（土）に、釧路市立阿寒湖義務教育学校での学校実習が実施されましたので、ご報告します。詳細は、以下の PDF 版記事をご覧ください。



第 5 回の教員基礎探究は、釧路市立阿寒湖義務教育学校での学校実習が実施されました。前回、第 4 回の教員基礎探究の際、阿寒湖義務教育学校の 1～4 年生を対象に実施する異学年交流の内容を考え、今回の学校実習ではそれを実施することが大きな内容の一つでした。また、それ以外にも学校実習の目標を一人一人が立て、目標を意識した上で参加しました。

当日、阿寒湖義務教育学校に着いてからは、初めに校長先生、教頭先生からのガイダンスがありました（写真 1）。

ガイダンスの終了後、配属学年に行き、自己紹介を行いました（写真 2）。今回は、1・2 年生に配属されました。今回参加した高校生は、昨年度、教員基礎で阿寒湖義務教育学校を訪問したことがあります。それ以来になるため、楽しみにしていた一方で、少し緊張していた面がありましたが、この自己紹介とその後に交流する時間を設けていただいたことで、子どもたちと関わり、緊張がほぐれたようでした（写真 3）。

2 時間目は授業参加の時間でした。1 年生、2 年生とも国語の授業に参加させてもらいました。どちらの授業もタブレット端末を使用しながら授業を行っており、その際、子どもたちと関わらせてもらったことで、授業の流れや工夫、子どもたちとの関わり方について学ぶことができました（写真 4）。

3 時間目は、体育館で 1～4 年生を対象とした異学年交流を行いました。この時間は、高校生が進める時間としていただき、事前に考えた内容、役割分担で実施しました。「みんなで仲良く遊ぶこと」、「積極的に違う学年の人と関わること」を授業の目標とし、3つの企画を実施しました（写真 5）。

1 つ目は、グループ作りです。指定された人数でグループを作ることができたらその場に座るというゲームでした。できるだけ違う学年でグループを作ってほしいと伝え、授業のねらいを意識していました。最初に、一度、練習を入れて全員がやり方を掴んだうえで少しずつ人数を増やしていきました。最終的には、2 つ目の企画でチームを 2 つに分ける必要があったので、そこにつながるようグループ分けを行いました。楽しみながら違う学年と交流し、次の企画に向けてグループ分けができるよう工夫をしていました。

2 つ目は、ボール運びゲームです。全員を 2 つのチームに分けた状態で整列し、指定された渡し方で前から後ろにボールをつないでいくゲームです。渡した人は列の後ろに移動し、再度、ボールをもらえるようにつないでいくことになっており、ルールがうまく伝わるか心配していましたが、一度、実演をするなど説明の仕方を工夫しながら伝えていました。最初は、横から渡し、次は股下から、最後は頭の上から渡しました。勝敗があるゲームでしたが、どちらのチームも楽しみながら交流することができました。

3 つ目は、鬼ごっこをしました。鬼ごっこは 4 種類実施し、音楽をかけて、その曲が終わるまでに逃げ切れれば勝ち、というルールでした。「線おに」、「バナナおに」、「鎖おに」、「氷おに」を行い、いずれも高校生がおに役

になりました。最初に「線おに」をした時には、ルールをうまく伝えることができない部分がありましたが、その後、実演をすること、わかったか確認する時間を入れるなどをすることで、全員が説明を理解するために工夫をしながら取り組んでいました。どの鬼ごっこも小学生はとても楽しみながら取り組むことができていました。終わった後に、高校生の近くに来て、汗だくになりながら楽しそうに話しかけていました。

全体を通して、目標を意識しながら進めることができていたように感じられました。また、時間内に予定していた企画を実施することができたのは、事前の準備をしっかりと進めていたためだったと思います。他にも、はっきりとした声で子どもたちに説明する、途中、実演を説明に取り入れる、伝えた後に、質問を受け付けるようにすると、状況を見ながら必要なことに取り組んでいたように感じられました。2年次の教員基礎から継続して取り組んできた経験が生かされた取り組みであったと感じられました。

授業の終了後は、帰りの会に参加させてもらい、最後は、バスで帰ることになる子どもたちの見送りに行きました。バスが来るまでの時間、自由に子どもたちと話したり、遊んだりすることができたのは、高校生にとってとても良い時間になったようでした（写真6）。

最後の閉会式では、教頭先生より「教員の仕事は大変。でも、それ以上にやりがいがある仕事。将来、みなさんが教員になり、一緒に働けることを楽しみにしています。」とメッセージをもらいました。

釧路に戻ってからは、教育大学釧路校の図書室にあるグループ学習室でふりかえりを行いました（写真7）。ふりかえりの中では、「授業の中での先生方の声のかけ方（課題意識をもたせたり、今後の学習につなげるための工夫）が勉強になった」、「小学校の低学年からタブレットを使用しており、どのように授業で活用していくのか勉強になった」、「（異学年交流の中で）はっきりと大きな声で伝えたり、実演を入れるなど伝え方を工夫できた」、「説明したつもりでもなかなか伝わらないことがあった」など、目標に関連することや実践してみて気が付いたことを発表していました。活動記録に今回の学校実習を通した学びや今後の課題を整理しておき、これからの学習につなげてくれることを期待しています。最後の発表がとても楽しみです。



写真1



写真2



写真3

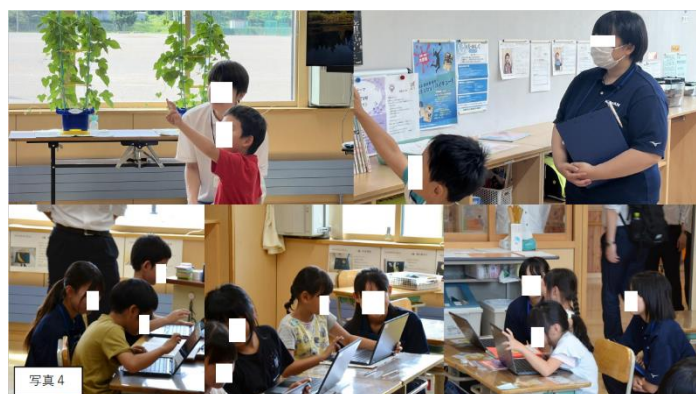


写真4



写真5



写真6



写真7